

収益性・安全性・生産性の総合評価

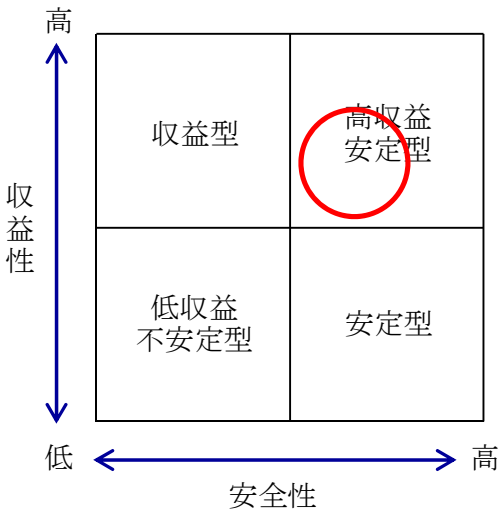
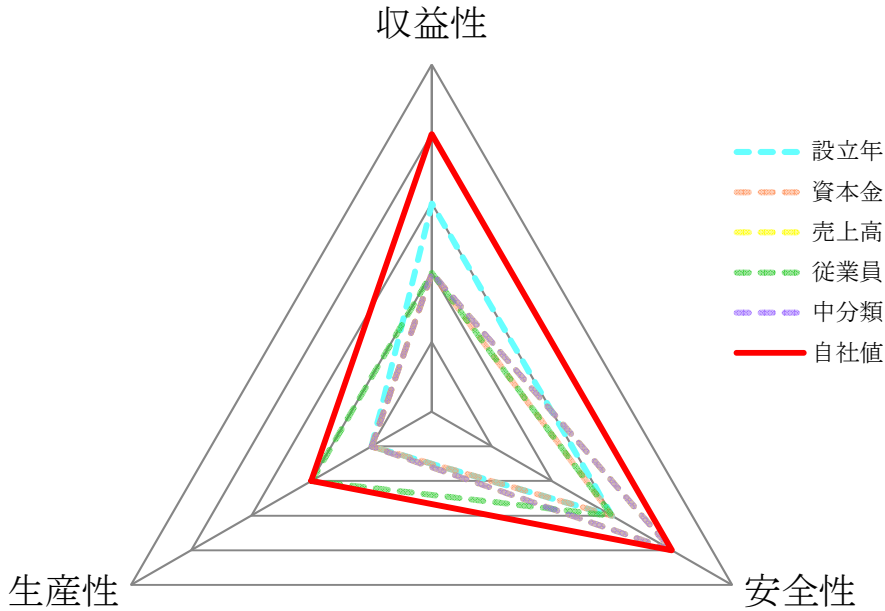
〇〇〇〇〇株式会社 第3期

比較産業分類 大分類 : サービス業

【区分】 中分類産業 : その他の事業サービス業
 従業員規模 : 6人~20人
 売上高規模 : 1億円超~5億円
 資本金規模 : 1千万円以下
 設立年 : 昭和60年~平成6年

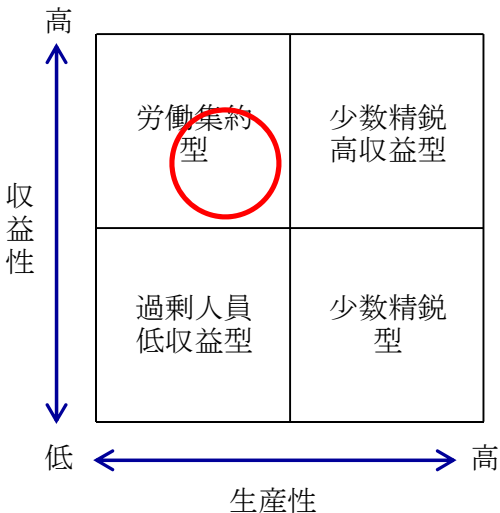
個別点数			平均点数
収益性	安全性	生産性	3.3
4	4	2	

※ 5段階評価



高収益安定型

収益性が高く、安全性も高い理想的な経営状況です。新たな収益の柱をつくる為に戦略的な費用を使える体力もありますので新商品開発等を積極的に行いましょう。また、貸借対照表においては、自己資本比率も高く筋肉質な理想的な財政状況なので、今後もこのバランスを保ちながら先行投資を続けて会社を成長させていきましょう。収益性が高ければ、安全性が高くなり、先行投資により一段と収益性が高くなるという、プラスの循環で益々の発展が期待されます。



労働集約型

収益性は高い位置にあるが、生産性が低い状況です。このタイプは、労働集約型の事業形態に多く、マンパワーにより付加価値を生み出している傾向にあります。また生産性に比べ、収益が著しく高い場合は、給与水準が低い事も想定されます。生産性効率を上げる方法を検討することが必要となり、設備投資等や資本を活用して生産効率を上げる方法や、人員削減により少人数で生産活動ができないか等を検討してください。生産性を上げることで、給与水準を上げながら労働分配率を下げるのが中小企業において理想的な形となります。